

第8次  
猿払村総合計画  
(案)

令和8（2026）年度～令和17（2035）年度

# 基本構想

# 第1章 第8次猿払村総合計画について

## 1. 総合計画策定の趣旨

猿払村では、平成 27 (2015) 年度に「第7次猿払村総合計画」(計画期間：平成 28 (2016) ～令和 7 (2025) 年度) を策定しました。第7次総合計画では「さらなる豊かさの追求」をテーマに、「豊かな産業がある村(仕事づくり)」、「心豊かでステキな人がいる村(人づくり)」、「村民の豊かな暮らしを支える環境がある村(環境づくり)」の3つを将来像に掲げ、村民と行政が連携して諸課題に取り組んできました。

しかしながら、本村の人口減少と少子高齢化は一層進行しており、さらには公共施設の維持管理費や社会保障関係費の増大などにより、今後も厳しい財政運営が見込まれています。さらに、刻々と変わり続けていく社会経済情勢や財政状況の先行きには不透明な面もあります。

このような状況の中、持続可能で自立した村をつくるため、令和 8 (2026) 年度から令和 17 (2035) 年度までの 10 年間の計画期間とする「第8次猿払村総合計画」を策定します。

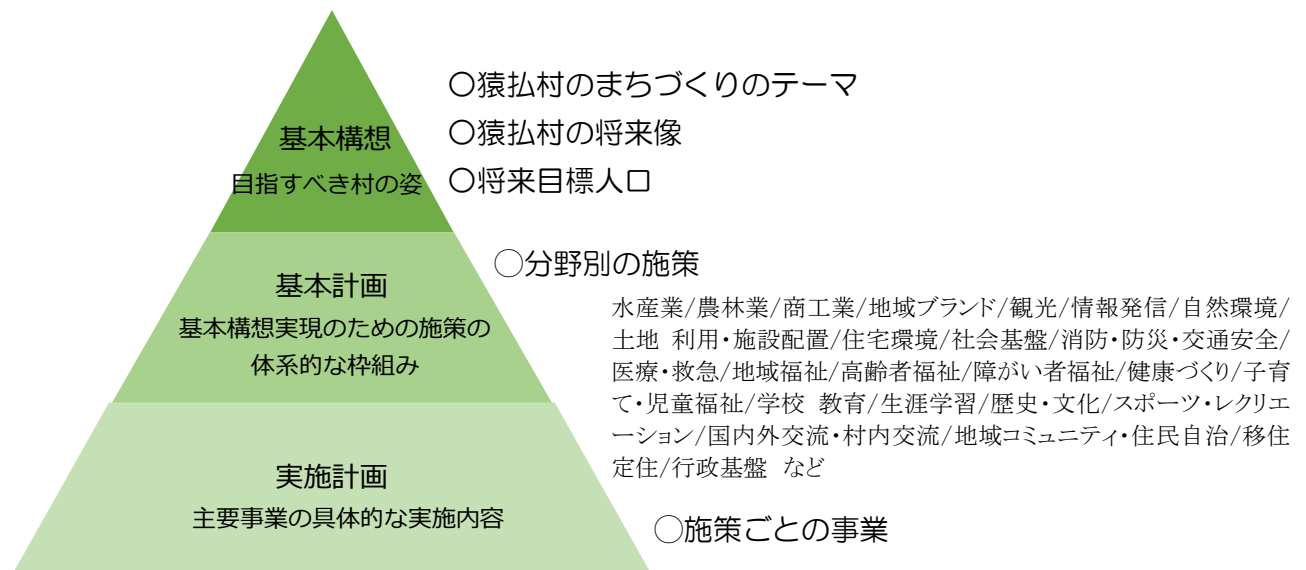
## 2. 計画の位置付け

本計画は、本村における最上位計画として位置付けます。

## 3. 計画の構成と期間

### (1) 計画の構成

総合計画は、「基本構想」「基本計画」のほか、これらに基づく具体的事業として掲げる「実施計画」により構成されます。



## ■基本構想

基本構想は、長期的な展望に立ちながら、「まちづくりのテーマ」と「将来像」、その実現のための「まちづくりの基本目標」を掲げ、体系的に示します。

## ■基本計画

基本構想で掲げた「まちづくりのテーマ」、「将来像」、「まちづくりの基本目標」を実現するために取り組む施策を「施策の柱」及び「主な施策」として整理し、示します。

## ■実施計画

「基本計画」に掲げられた主な施策の実効性を担保するため、財政計画との整合性を図りながら、具体的な事業内容・財源・実施時期などを示します。

計画期間は5年間とし、主要施策の評価検証を行いながら見直しをする PDCA サイクルにより、毎年度、進捗管理をします。

### (2) 計画の期間

基本構想及び基本計画の計画期間は、令和8（2026）年度から令和17（2035）年度までの10年間とします。基本計画においては、社会経済情勢や財政状況の変化に合わせて必要に応じて見直しを図ります。実施計画の期間は5ヶ年とし、ローリング方式により毎年度見直しを行います。



## 第2章 猿払村の概要

### 1. 猿払村の概要

猿払村は「日本最北の村」として、北海道の最北部にあたる宗谷総合振興局管内のほぼ中央に位置します。猿払村の東はオホーツク海に面し、西は丘陵性山地を境に豊富町、南は幌延町、浜頓別町、北は稚内市に隣接しています。

総面積の約8割が山林と原野で占められ、主として丘陵性山地で、役場所在地の鬼志別をはじめ、大小11の集落が点在しています。

### 2. 猿払村の産業

#### ○漁業

猿払村の漁業は、資源枯渇による苦難の時代がありましたが、資源管理型漁業に転換し、オホーツク海の大自然の恩恵を受けたホタテ貝や毛ガニ、サケ、マスなどが「さるふつブランド」として知られています。

猿払村漁業協同組合では、資源管理型漁業の推進のため、現在でも独自の試験研究体制の整備を行い、生産技術の向上を目指しています。

また、水産物の加工やホタテ貝殻の有効活用などの研究が産業間の連携により進められており、ブランドやイメージづくりがなされています。

#### ○酪農業

猿払村の農業は、酪農業を主力とし、漁業と共に基幹産業となっています。

近年は、農作業の分業化を推進し、コントラクターやTMRセンターを中心に経営の近代化・農地の集積・後継者対策に努め、更なる経営の安定を目指しています。

また、魅力ある農村環境づくりに向け、クリーンな牛舎や生産設備の整備など生活環境の改善などにも取り組んでいます。

#### ○林業

猿払村は、総面積の約8割を山林等が占め、その豊かな森林資源を保全・活用するため、計画的な造林・林道整備を促進しているほか、住民が自然とふれあう場や子どもたちの環境教育の場など、さまざまな活用を展開しています。

#### ○商工業

商店や飲食店は、経営者の高齢化や後継者不足などを背景に衰退が続いており、特に食料品や日用品の買い物における利便性の低下が課題となっています。

また、建設業及び水産加工業を主とした製造業では、人材の確保が課題となっています。

#### ○観光

観光拠点である「道の駅さるふつ公園」には、地場産品を使った飲食やキャンプを目的に多くの来訪者が訪れているほか、壮大な直線道路の景観で知られるエサヌカ線は、ライダーを中心に

人気のスポットとなっています。また、貴重な自然環境を有する北オホーツク道立自然公園（モケウニ沼・カムイト沼）が位置しています。

### 3. 猿払村の暮らし

#### ○公共交通

猿払村には、公共交通機関のない空白地域があり、デマンド交通などの対策を講じています。また、医療・福祉施設までの移動を支援するサービスなどの施策も講じられています。

#### ○医療・高齢者福祉

医療施設は、有床診療所と民間の歯科診療所がそれぞれ1施設あり、地域医療を支えています。

また、高齢者福祉施設については、社会福祉法人が運営する特別養護老人ホーム1施設（30床）や村直営による「小規模多機能型居宅介護施設」と「地域交流施設」の2つの機能を持つ「楽楽心」を運営しています。「楽楽心」の利用者は増加傾向であり、地域交流施設としては、食堂や地域交流室などの機能があります。そのほか、令和7（2025）年からは有床診療所に併設する介護医療院（4床）の供用を開始しています。

#### ○子育て・児童福祉

猿払村には、保育所が1か所、小学校が4校と中学校が1校あります。村内の小中学生には1人に1台のタブレットが配布され、ICTを活用した授業が行われています。

また、子育て支援センターでは子育てボランティアが活躍し、村全体での子育て支援に取り組んでいます。

また、令和5（2023）年度には保育所の隣接地に児童館を新設し、小学生を対象とした児童クラブを移転しました。

#### ○地域コミュニティ

猿払村には13の自治会・町内会があり、地域のお祭りや防災訓練などを実施しており、猿払村発祥のスポーツ「サークルボール」などのスポーツを通じたコミュニティも築かれています。

#### ○移住・定住

猿払村への移住者を増やすための取組みとして、求人・移住情報サイトを開設し、猿払村での暮らしや仕事を紹介しています。

## 第3章 猿払村を取り巻く社会状況

### 1. 少子高齢化・人口減少

日本の総人口は平成 20（2008）年をピークに減少しており、令和 35（2053）年の人口は1億人を下回ると見込まれており、生産年齢人口についても平成 7（1995）年をピークに減少し、総人口に占める年少人口の割合は世界的にみても低い水準となっています。このような状況から、令和 18（2036）年には約3人に1人が高齢者になると推計されています。

人口減少や少子高齢化の進行により、さまざまな影響が懸念されていますが、この人口減少社会で豊かな暮らしを送るためには、“幸せを感じて生きている人”や“自らの力で暮らしを楽しくし、住みやすい地域をつくっていく人”の数を増やしていくことが大切です。

そして、地域コミュニティの活性化や住民の幸福度を高め、あらゆる世代が生き生きと生活できる村づくりを進めることが求められています。

### 2. 価値観やライフスタイルの多様化

近年、経済のグローバル化や新型コロナウイルス感染症などの影響により、社会経済情勢は大きく変化しました。

人々の価値観やライフスタイルが多様化するとともに、物質的な豊かさだけでなく心の豊かさを重視する方向へと変化しています。

働き方においては、終身雇用や年功序列型の賃金体系は形骸化しつつあります。どこで、どのような働き方をするのかという選択肢も広がっています。同時に、より多くの人々が社会で活躍できるようになりました。

一人ひとりの考えやニーズに合わせて暮らしや働き方などを選ぶことができる時代においては、多様な価値観や個性を尊重し、それぞれの人にあった暮らしを実現することのできる村づくりが求められます。

### 3. 脱炭素社会・SDGs の追求

2050年までにカーボンニュートラル（CO<sub>2</sub>排出量の実質ゼロ）を目指す動きが世界中で進んでおり、日本でも脱炭素社会に向けた取組みが重要になっており、再生可能エネルギーの導入や省エネルギー住宅、施設整備、電気自動車などによるグリーンモビリティの推進、循環型農業の推進などの取組みが求められています。

土地利用においても、自然環境の保全や移動しやすいまちづくりなどが大切となります。

### 4. 都市部から地方への人の流れの創出

日本全体の人口減少に加え、都市部への若者の流出によって、地方の人口減少に拍車がかかっています。

政府は、地方における仕事や雇用の創出や、若者が結婚・妊娠・出産・育児がしやすい環境をつくることで、暮らし続けたいくなる、移住したいくなる地域づくりにつなげようとしています。

そのためには、自分たちの村にある地域資源を活かした手法を考え、行動することが大切であり、さらにその行動を続けていくためには、自分が楽しいと思えることが必要です。

“自分が得意なこと・楽しいことだから続けていくことができる”、“誰かのためになっているからやりがいを感じ、さらに広がっていく”、このような循環が求められています。

## 5. AIなどを取り入れた暮らしの実現

今後、高齢化社会が進むと、医療や福祉にかかる費用、インフラの老朽化や高齢化による公共交通の需要が高まると予測されています。

一方で、人口減少により税収が低下していることから歳入が減少することも予想され、事業の優先度の選択と集中がさらに必要となっています。

また、地球温暖化に伴う異常気象や地震など自然災害が毎年のように発生しており、だれもが安心して生活できる社会づくりが求められています。

AI、ビッグデータなど情報通信技術が急速に進展・普及しており、産業、医療、教育などさまざまな分野や生活のあらゆる場面において活用が期待されています。

村民に住み慣れた地域で暮らし続けてもらうためにも、デジタル化を積極的に推進し、村民生活の利便性向上と効率的な行政運営につなげていく必要があります。

## 第4章 猿払村のまちづくりのテーマと将来像

### 1. 猿払村のまちづくりのテーマ

これまで、猿払村では「さらなる豊かさの追求」をテーマにまちづくりを行ってきました。今後10年のまちづくりも、これまでのまちづくりの考え方を踏襲しながら、大きく変化している社会情勢などを踏まえつつ、引き続き「さらなる豊かさの追求」をまちづくりのテーマとします。

「さらなる豊かさの追求」にあたっては、先人の知恵と努力によって育まれてきた「12のチカラ」を引き継ぎ、まちづくりを進めていきます。

猿払村のまちづくりのテーマ

### さらなる豊かさの追求

12色のチカラ～猿払ライフスタイル

猿払村は、北海道の北端に近い自然豊かな地に位置し、漁業と酪農業という一次産業を基盤として発展してきました。過去には厳しい時代も経験しましたが、先人たちの知恵と努力により、その困難を乗り越え、いまでは村の豊かさを支える力強い産業として根づいています。

私たちが目指す「豊かさ」とは、単なる経済的な指標にとどまらず、「暮らしの質」や「心の充足」、「人とのつながり」など、多面的な価値を含むものです。たとえば、四季の移ろいを感じながら自然と共に生きること、地域で助け合いながら支え合う人のつながり、心と時間にゆとりのある暮らし、テレワークや二拠点居住といった新しい働き方の選択、カフェや民泊などによる小さな起業での自己実現、そして次の世代へと誇りを持って継承できる地域の未来——。これらすべてが「豊かさ」のかたちです。

こうした多様な豊かさを、人口減少や少子高齢化といった社会の変化のなかでも村民みんなで守り育て、さらに磨きをかけていくことが、これからの猿払村にとって重要です。

そのために、これまでの歩みの中で育まれてきた「12色のチカラ」をしっかりと受け継ぎながら、誰もが誇りを持ち、幸せに、そして安心して暮らし続けられる、やさしさに満ちた村づくりを進めていきます。

## 2. 猿払村の将来像

かつて猿払村は、漁業資源の枯渇により「貧乏見たけりゃ猿払へ行きな」と揶揄されるほど厳しい時代を経験しました。しかし、先人たちの惜しみない努力と知恵により、現在の豊かな産業基盤が築かれました。その精神は、今なお村民一人ひとりに受け継がれ、知恵を絞り、前向きに歩み続ける姿が地域に息づいています。

これからの猿払村では、漁業や酪農業を中心とした基幹産業を環境と調和させながら持続可能なかたちで継承・発展させることに加え、地域の魅力を広く発信し、猿払村ブランドの価値をさらに高めていくことが重要です。

また、人口減少や少子高齢化といった社会の変化を見据え、誰もが安心して住み続けられる地域づくりが求められています。医療・福祉の充実、子育て支援の拡充、そして地域コミュニティの再構築を通じて、多様な人々が共に支え合いながら暮らせる環境を整えていきます。

さらに、持続可能な生活基盤の維持とあわせて、村民が地域活動に主体的に関わり、生き生きと暮らすことのできる社会を育むことも欠かせません。

このように、産業と暮らしの両面において持続可能な環境が整い、地域に活力と誇りが生まれることで、猿払村で育った子どもたちが「いつか戻りたい」と思える村へ、そして関係人口や移住者が自然に惹きつけられる魅力ある村へとつながっていきます。

### 海と大地のめぐみのあるむら

猿払村では、先人たちの知恵と努力によって築かれた水産業が、作業のオートメーション化や環境に配慮した漁業手法と融合することで、持続可能かつ国際的にも高く評価されるブランド産業へと進化しています。

水産加工業を支える外国人労働者も、地域社会の一員として受け入れられ、文化の違いを尊重しながら安心して暮らせる「共生のむら」が実現されています。

また、酪農業においても、環境負荷を抑えた先端技術の活用が進み、高品質な生乳の生産と持続可能な経営が両立した魅力ある産業として確立されつつあります。新たな担い手の参入も進み、酪農業が地域に根ざした活力ある産業として再生し、猿払ブランドの価値をさらに高めています。

こうした産業の発展に伴い、地元の海産物や乳製品、自然体験、美しい景観を求めて多くの人々が訪れ、村全体に交流とにぎわいが生まれています。

「海と大地のめぐみのあるむら」とは、自然資源を守りながら活かし、産業・人・文化が共に調和し輝く未来の姿です。猿払村は、この将来像の実現に向けて、着実に歩みを進めていきます。

## 安心して住み続けられるむら

猿払村では、人口減少や少子高齢化が進むなかにあっても、すべての住民が世代や国籍を問わず、安心して暮らし続けられる地域づくりを目指しています。

地域には、外国人や移住者を含めた多様な人々が互いに尊重し合い、温かな人のつながりの中で支え合うコミュニティが築かれています。こうした共生のもと、子育てや高齢者支援は地域ぐるみで行われ、顔の見える関係性が暮らしの安心感を育んでいます。

医療や福祉のサービスも充実し、健康づくりや予防医療への取組みも進んでおり、ライフステージに応じた支援体制が整えられています。

さらに、道路や上下水道といった社会インフラは適切な維持管理がされ、防災体制の強化とあわせて、安心・安全な暮らしを支える基盤が構築されています。

猿払村は、こうした産業・暮らし・人のつながりの基盤を大切に、誰もが誇りと愛着を持って「住み続けたい」と思える村を、未来にわたって築いていきます。

## 挑戦できるむら

猿払村では、人口減少や少子高齢化が進むなかにあっても、村民一人ひとりが地域社会の一員として、仕事だけでなく、まちづくりや地域活動にも主体的に関わることで、地域に根ざした豊かで生きがいのある暮らしを実現しています。

今後も猿払村は、「挑戦が暮らしをつくるむら」として、一人ひとりの意欲やアイデアを地域の変え、誰もが前向きに挑戦できる環境づくりを推進していきます。

## 選ばれるむら

猿払村は、豊かな自然、基幹産業としての水産業や酪農業、そして挑戦を支える地域風土に恵まれた魅力ある地域です。こうした地域資源や人の営みを活かし、「ここに住みたい」「また戻ってきたい」「関わり続けたい」と思われる“選ばれるむら”の実現を目指しています。

実際に、かつて猿払村で育ち、進学や就職で村を離れた人々のうち、猿払村の産業や仕事に魅力を感じてUターンする方が一定数いますし、自然環境や挑戦できる環境に魅力を感じて移住される方もいます。

村で育つ子どもたちは、雄大な自然の中でのびのびと育ち、地域で挑戦を続ける大人たちの背中を見ながら、自らも未来に挑む意欲を育んでいます。近年では、「いつか猿払村に戻りたい」と思う若者の声も増えており、村の魅力が次世代にも着実に伝わっています。

さらに、村の海産物や乳製品を通じて猿払村を知る人も増え、「挑戦できる村」としての認知度やブランド価値が高まりつつあります。生活の安心、しごとの魅力、人とのつながりを備えた猿払村は、全国各地から“選ばれる”存在へと歩みを進めています。

今後も猿払村は、多様な人々が住み、訪れ、関わり続ける地域として、地域資源の価値を高めながら、「選ばれるむら」の実現に向けた取組みを着実に進めていきます。

### 3. 基本方針と12色のチカラ

将来像を実現するためにまちづくりの4つの基本方針を定め、「12色のチカラ」でまちづくりを推進します。

#### 4つの基本方針と12色のチカラ

豊かな産業により  
豊かで活気のある村

- ①海のチカラ
- ②大地のチカラ
- ③挑戦するチカラ

安全・安心で  
豊かな暮らしが愉しめる村

- ④元気のチカラ
- ⑤暮らしを支えるチカラ
- ⑥安全安心のチカラ

一人ひとりが生きがいを持って  
豊かな心を育む村

- ⑦結のチカラ
- ⑧一人一人のチカラ
- ⑨つながるチカラ

情報と交流により  
豊かなつながりが生まれる村

- ⑩交流のチカラ
- ⑪にぎわいのチカラ
- ⑫情報のチカラ

## 基本方針1：豊かな産業により豊かで活気のある村

猿払村は、豊かな自然に恵まれた環境のもと、漁業と酪農業を基幹産業として地域経済を支えてきました。これらの一次産業は、今後においても村の活力の源であり、地域の持続可能な発展を支える重要な柱であり続けます。そのため、今後も漁業と酪農業の振興を着実に推進していきます。

あわせて、これらの基幹産業を基盤に商業や観光との連携を図ることで、新たな産業の広がりや地域経済の多様化を目指します。地域資源を活かした体験型観光や地場製品のブランド化などにより、魅力ある産業の創出を目指します。

こうした取り組みは、将来を担う子どもたちが「この村で働きたい」と思えるような魅力的な仕事や雇用環境を創出することにつながり、若い世代の定住促進や人材流出の抑制にも寄与します。

これからも猿払村は、産業振興に確かな軸足を置きながら、地域資源を活かした持続可能で多様な産業の展開を通じて、安定した雇用と豊かな暮らしを実現する村を目指していきます。

### 1 2色のチカラ

#### ①海のチカラ

猿払村の水産業は、先達の知恵と努力によって生まれ、ホタテ漁をはじめとした資源管理型の漁業が村の基幹産業として定着し、村民の暮らしを支え、地域の誇りを支えてきました。

今後は、技術革新や環境に配慮した取り組みに対する支援を図るなど、水産業の持続的な発展を目指します。

生産から加工・流通までがつながる産業の循環を促し、地域資源の価値を一層高めていくことを目指します。

#### ②大地のチカラ

広大な大地を活かした酪農業は、暮らしと地域経済を支える基幹産業の一つです。

今後は、担い手の確保や生産基盤の整備を進め、安定した営農体制を築いていきます。加えて、環境との調和や先端技術の導入支援、地域資源の活用にも取り組み、持続可能な酪農業を目指します。

#### ③挑戦するチカラ

人口減少が進む中であっても、村民が将来にわたり持続可能な暮らしを営み、地域の雇用を維持できるよう、既存商店の円滑な事業承継や事業継続を支援するほか、起業を促進するための支援など「挑戦が息づくむら」を目指していきます。

加えて、生活商業インフラの弱体化が進んでいることから、生活必需品を購入しやすい環境整備にも取り組んでいきます。

## 基本方針2：安全・安心で豊かな暮らしが愉しめる村

猿払村は、広大な土地に集落が点在する地理的特性を持ち、人口の少ない地域では、地域コミュニティの維持や生活交通の確保といった課題を抱えています。こうした状況のなかでも、村民一人ひとりが安心して豊かに暮らし続けられるよう、生活基盤や住宅環境の整備・維持管理、道路・上下水道などのインフラの更新に加え、医療・福祉サービスの充実、防災・消防体制の強化など、暮らしを支える地域環境の充実を進めていきます。

また、村の象徴でもある希少種イトウに象徴される豊かな自然環境の保全は、猿払村の誇りです。漁業や酪農業など基幹産業においても、持続可能な形で自然との共生を図る取組みを推進していきます。

こうした取組みを通じて、村民が生き生きと暮らし、自然と調和した豊かさを実感できる村を目指します。

### 1 2色のチカラ

#### ④元気のチカラ

猿払村では、子どもから高齢者までの誰もが生き生きと健やかに暮らすことのできる村づくりのため、村民の健康増進に向けた環境整備を進めてきました。

今後は、村民が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、安定した医療提供体制の確保や救急活動の質的向上などを進めることで、健やかに暮らすことができるむらを目指します。

#### ⑤暮らしを支えるチカラ

猿払村では、すべての村民が地域とのつながりや生きがいを実感し、村民同士が助け合うことのできる地域づくりを進めるため、社会福祉協議会などと連携を取り、地域を共に創っていく「地域共生社会」の実現を目指してきました。しかし、高齢社会の進展などで多様なニーズへの対応が求められています。

今後は、あらゆる世代が安心して暮らし続けられるよう、介護予防や在宅支援、福祉サービスの充実を図るとともに、地域の力を活かし、住民と連携をしていくことで、誰もが安心して暮らし続けられるむらを目指します。

#### ⑥安全安心のチカラ

広大な行政区域を持つ猿払村では、これまでも環境への配慮と持続可能なまちづくりを進めてきましたが、特に社会インフラや公共施設の維持と老朽化が大きな課題となっています。

今後は、人口減少や高齢化を見据え、持続可能な基盤整備と住環境の改善を進めるとともに、地球温暖化や高齢化に備えた防災体制の強化、環境・社会・経済の調和を図ることで、誰もが安心して暮らすことができる安全でやさしいむらを目指します。

## 基本方針3：一人ひとりが生きがいを持って豊かな心を育む村

猿払村は、これまでの困難な時代を地域全体で支え合い、知恵と行動によって乗り越えてきました。そうした歩みの背景には、課題を共有し、地域の未来をともに築こうとする「人のチカラ」と「一体感」がありました。

今、私たちは人口減少や少子高齢化といった新たな課題に直面しています。この時代を乗り越えていくためにも、先人たちが育んできた「人のつながり」と「知恵」を活かすことが重要です。

特に、子どもの成長を支える保育・教育・生涯学習が一体となって連携することで、自立し、地域を担う魅力ある人づくりを推進します。

また、少子高齢社会においては、住民同士が支え合い、見守り合う地域コミュニティの充実が求められます。世代を超えたつながりを大切にし、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進めます。

人口減少が進む中では、住民一人ひとりが「一人二役」の担い手としてまちづくりに関わることが期待されます。特に、豊かな経験と意欲を持つアクティブシニアが活躍する場を広げ、地域の活力を高めます。

さらに、まちづくりは行政だけが担うものではありません。地域の課題解決には、民間の柔軟な発想やノウハウを取り入れ、地域内外の多様な主体と連携することが不可欠です。周辺自治体との広域的な協働も視野に入れながら、持続可能な地域社会を構築していきます。

### 12色のチカラ

#### ⑦結のチカラ

猿払村には、世代を超えて支え合う温かな地域コミュニティがあります。

今後は、子育てや教育への多様なニーズに応える環境づくりを進め、誰もが地域の中で安心して暮らせる体制を整え、人と人とのつながりを育む、温かなむらの維持と向上を目指します。

#### ⑧一人一人のチカラ

猿払村では、少子高齢化が進む中で、一人ひとりが役割を持って地域に関わる大切になっています。

今後は、住民の知識や経験を活かし、学び直しや地域活動を支える仕組みを整えていき、誰もが活躍できる、いきいきとしたむらを目指します。

#### ⑨連携するチカラ

猿払村では、地域の課題を解決するために、民間や他自治体との連携がますます重要になっています。

今後は、住環境の整備や行政サービスの充実に向け、官民や広域での連携を深めることで多様な力が協働する、持続可能なむらを目指します。

## 基本方針4：情報と交流により豊かなつながりが生まれる村

猿払村では、地域の魅力を内外に発信し、人と人、人と地域をつなぐ「情報」と「交流」を通じて、豊かで持続可能な村づくりを進めていきます。

豊かな自然や一次産業、落ち着いた暮らしの魅力を活かし、移住・定住を促進するためには、村の暮らしや仕事のリアルな魅力を丁寧に伝える情報発信が不可欠です。移住希望者に向けては、デジタルメディアやイベント等を活用し、暮らしの魅力や子育て環境、働く場などの発信力を高めていきます。

あわせて、観光交流の促進にも力を入れ、自然体験や食文化など猿払村ならではの価値を体感できるコンテンツを磨き、リピーターを育む関係人口の創出を図ります。

今後も、猿払村の魅力を積極的にプロモーションしながら、多様な人々とのつながりを育み、「住みたい」「訪れたい」「関わり続けたい」と思われるむらを目指します。

### 12色のチカラ

#### ⑩交流のチカラ

猿払村には、豊かな自然や観光資源など多くの魅力があります。

今後は、こうした地域の魅力を生かし、交流人口を増やす取組みを進めることで、地域経済の活発化を進めていきます。

#### ⑪にぎわいのチカラ

人口減少や高齢化が進む中、地域の活力を保つことが求められます。

今後は、移住者の受入体制の充実や関係人口の創出により、交流の場や日常ににぎわいを生み出す取組みを進め、人々のつながりと活力から豊かに暮らせるむらを目指します。

#### ⑫情報のチカラ

猿払村では、広報紙やSNSなどを活用し、地域の魅力や取組みを発信しています。

今後は、多様な情報発信や共有の仕組みを強化し、村の認知度や住民の一体感を高めることで、情報が人と地域をつなぎ、新たな力を生み出すむらを目指します。

# 第5章 総合計画の体系

- テーマ -

- 基本目標 -

- 12色のチカラ -

- 主な取組み -

- 重点プロジェクト -

さらなる豊かさの追求

12色のチカラ・猿払スタイル

豊かな産業により  
豊かで活気のある村

しごと

安全・安心で  
豊かな暮らしが  
愉しめる村

環境

一人ひとりが  
生きがいを持って  
豊かな心を育む村

ひと

情報と交流により  
豊かなつながりが  
生まれる村

情報交流

1.海のチカラ  
(水産業)

2.大地のチカラ  
(農業・林業)

3.挑戦するチカラ  
(商工業)

4.元気のチカラ  
(健康・医療・救急)

5.暮らしを支えるチカラ  
(地域福祉・高齢者福祉・  
障がい者福祉)

6.安全安心のチカラ  
(自然・土地利用・環境・  
社会基盤・住環境・消防・  
防災・交通安全)

7.結のチカラ  
(子育て・保育・学校教育・  
地域コミュニティ)

8.一人一人のチカラ  
(社会教育・生涯学習)

9.つながるチカラ  
(人材確保・官民連携・広  
域連携)

10.交流のチカラ  
(観光)

11.にぎわいのチカラ  
(移住促進)

12.情報のチカラ  
(情報)

安全操業と生産の強化／漁場環境の維持／持続可能な水産業の構築

生産基盤の維持・強化と経営の安定化／多様な担い手の確保と就農支援／乳製品のブランド化と高付加価値化／農業・林業による地域の保全

商工業の活性化／起業・チャレンジの促進

地域医療体制の維持・強化／救急体制・搬送体制の充実／高齢者・在宅療養支援／母子保健・子育て支援の推進／地域包括ケアの推進／住民の健康づくりの推進

地域福祉の推進／高齢者福祉の充実／障がい者福祉の推進／横断的施策（共生社会に向けて）

自然環境・土地利用：自然環境の保全と活用／持続可能な土地利用の推進  
環境：地球温暖化への対応／再生可能エネルギー導入／SDGsの推進／ゴミ処理とリサイクル  
社会基盤・住環境：社会インフラの計画的維持・更新と最適化／道路・上下水道の整備・更新／インフラ点検・診断のデジタル化／村民との情報共有とリスク啓発／空き家・老朽住宅の利活用と良質な住宅環境づくり／公共施設・地域サービスの再編と持続可能な運営  
消防・防災・交通安全：消防体制の強化と持続可能な運営／地域防災体制の向上／交通安全の推進／高齢者ドライバー・交通弱者支援／地域ぐるみの安全意識向上

子育て・保育環境の充実／学校教育の充実と地域との連携強化／地域コミュニティの活性化／地域コミュニティによる子育て支援の共助体制づくり

村民一人ひとりのまちづくり参加／ふるさと意識の醸成と世代間交流の促進／生涯学習の推進／文化活動の推進／まちづくりリーダー・担い手の育成／地域おこし協力隊等の外部人材との協働

人材確保／官民共創によるまちづくり／広域連携の推進

地域資源を活かした観光体験の創出／交流機会の創出と受け入れ環境の整備／地域内連携と推進体制の構築

二地域居住・お試し暮らしへの誘導／多様な滞在施設の配置／運営・受け入れ体制の構築／情報発信と関係人口誘導

村民向け情報発信の強化／多世代に届く複線的な広報体制の整備／観光情報・関係人口向けの情報整備／村のプロモーション・移住促進施策／情報通信・デジタル基盤の整備

①猿払村ブランドづくりプロジェクト

②子育てしやすいまちづくりプロジェクト

③選ばれるまちづくりプロジェクト

④チャレンジするまちづくりプロジェクト

行政基盤（効率的な行政組織の運営／持続可能な財政運営／住民参画と協働の推進／広域連携の強化／社会保障制度の適正運営）

## 第6章 猿払村の将来人口

2020（令和2）年度の国勢調査における人口は2,611人となっており、人口は減少傾向にあります。

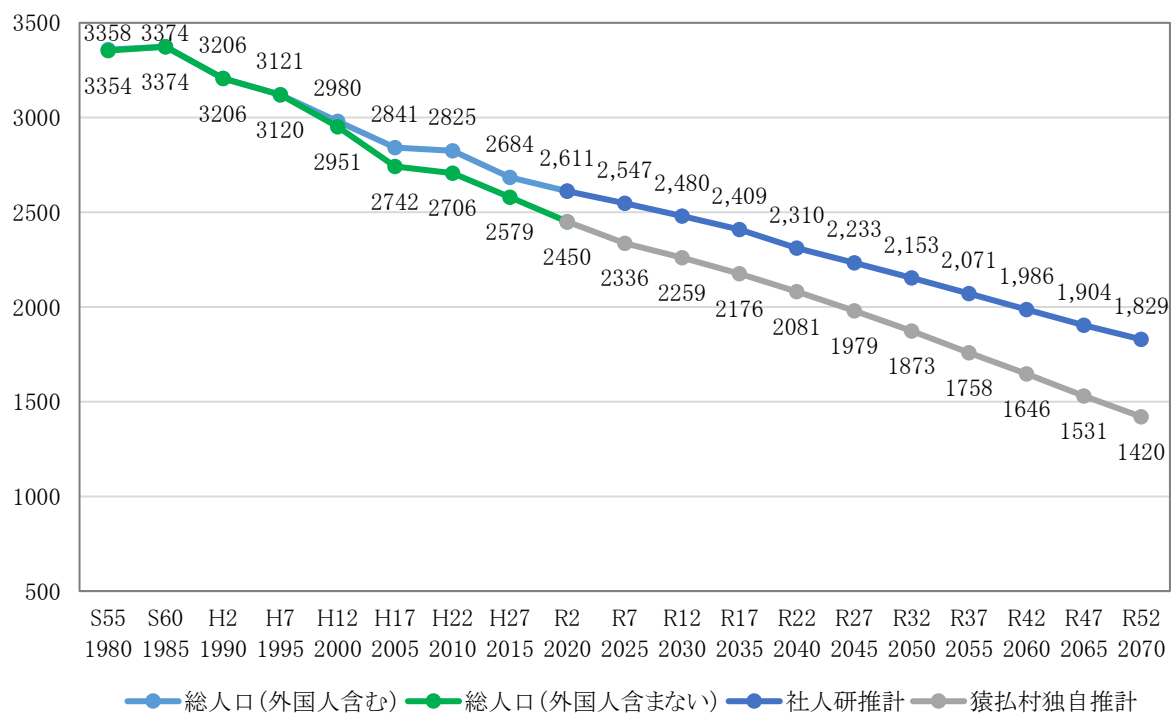
自然増減数（出生－死亡）と社会増減数（転入－転出）においては、社会増減数のマイナスが大きく、猿払村の人口減少は社会増減の影響を強く受けています。

このため、転出超過に対応した取組みが人口減少を抑える上で重要です。

一方、猿払村では出生率が高い特徴もあり、これを維持することに加え、子育て環境の充実化も重要になります。

こうした状況を踏まえて、2035年の猿払村の人口を推計し、目標人口を定めます。

### 人口の将来展望



総人口：国勢調査より、社人研推計：国立社会保障・人口問題研究所(令和5年推計)、

猿払村独自推計：社人研推計をもとに猿払村の実態にあわせた推計を独自に実施